

【ランドマーク性】 ●新しい香川の海の玄関としての顔はどういうものがふさわしいか？

ハーバーフロントの新しいランドマークとなる「緑の丘」

- ・「形態＝シンボル」だった20世紀型の建築ではなく、「**体験＝シンボル**」となる建築を目指します。
- ・絶景の眺望ポテンシャルを活かし、フェリーから降りた人に「**あの丘に登ってみたい**」と思わせる、**新たな観光の拠点**をつくります。
- ・瀬戸内国際芸術祭の島巡りの起点となる**アートの丘体験**を提供します。
- ・**子供からお年寄りまで、屋内外での様々な運動や活動をして過ごす**ことができ、健康増進や体力向上に寄与する場となります。



多目的広場側から風景
高松駅からアクセスした際、並木道を抜けると丘が現れ、香川の原風景である溜め池の土手のような風景が広がります

036



屋上公園からアリーナを望む
外の公園を歩いている人から、内部の様子を見ることができる



シーフロントプロムナードから連続した海辺のパブリックスペース
海に向かって傾斜した広場は、人々が憩い、海を眺める居場所となる



屋上展望アート広場からの眺望
起伏のある地形から絶景を楽しみながらアートに触れる体験は、ここにしかない特別な場となる



海側から望む夜景
建物から漏れる柔らかい光が灯台のように海を照らす



エントランス・プロムナード
メインアリーナとサブアリーナのロビーに挟まれた、海へと抜ける半屋外の空間



【都市構造】 ●どのように都市構造の中に位置づけるのか？

周辺の文脈を接続する都市インフラとしての丘

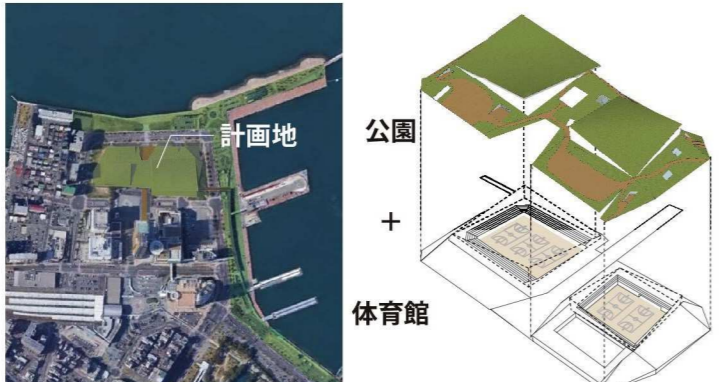
- ・海に近接しているにもかかわらず、現状、それほど海を感じられない高松の街の中心部に、**新しい海際のグリーンベルト**をつくりたい。
- ・都市計画として計画されたシーフロント・プロムナードやハーバー・プロムナード、将来的に計画予定のキャッスルプロムナードを接続し、**そのネットワークの拠点としての「緑の丘」**をつくりたい。
- ・このグリーンネットワークは、**新しい都市の骨格**となり、**ペイサイドシティ高松のアイデンティティを再生**します。
- ・フェリーターミナルやシンボルタワーを**ペDESTリアンデッキ**や**自由通路でつなぎ**、**地域の人、来訪者、観光客などの人の流れをコネクション**します。



【周辺との関係】 ●敷地周辺とどのように関係させるのか？

体育館+公園を同時につくる

- ・都市の貴重な海際の広場を継承し、**体育館の上に公園を同時につくりたい**。
- ・公園としての機能を持たせることで、体育館を利用するだけでなく、**周辺の建物や地域の住民からも喜ばれるような建物**をつくりたい。
- ・元々、公園で行われていた、花火大会やトライアスロン大会、さぬきマルシェやサマーナイトフェスティバルなど、**既存のイベントの多くをこの敷地の中でそのまま継続**できます。
- ・駅からアクセスする多目的広場側も、マンションに面した西側にも、「緑の丘」の表情を出すことで、**表と裏をつくらぬような計画**にします。
- ・公園と体育館が一体となる事で、**日常的な休憩、地域の健康増進やスポーツの準備運動等にも利用**できます。



【公共空間】 ●人々が喜びを共有する公共空間とはどのようなものか？

人々を海辺へ導くおらかな斜面広場

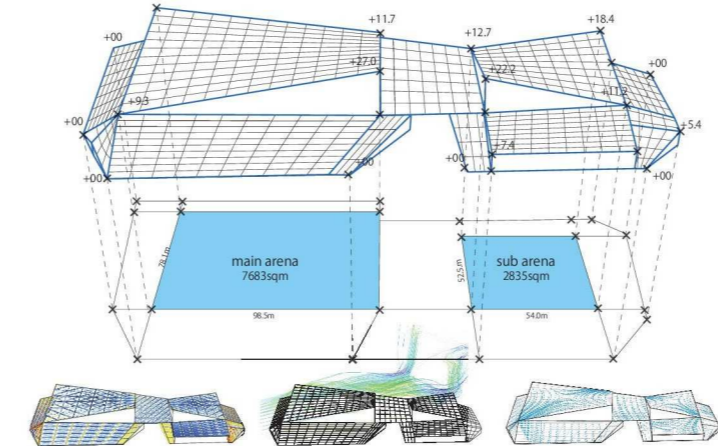


- ・新しいランドマークを特徴付ける**大きな斜面広場**のパブリックスペースとなります。
- ・海に向かって傾斜した広場は、北側に瀬戸内海、東側に屋島やフェリー乗り場を見渡す**絶景の場所**となり、**新しい観光の拠点**となります。
- ・**同じ方向に向かって大勢の人々が風景を共有**することで、**歓びを分かち合う場**となります。
- ・斜面は立体的に折り重なり、内外に多数の抜けがつくられることで、**屋内と屋外が一体化し、全体として大地の連続体**のように感じることができます。
- ・芸術祭やマルシェ、花火大会など**様々なイベントとも連動**することで、**日常的な人々の居場所**をつくりたい。
- ・フェリーや豪華客船などが寄港する風景と同化することで、**都市の視察性を強化する空間**となり、高松への**来訪者をもてなすための場**となります。

【機能性とデザイン性】 ●機能性とデザイン性をどのように両立させるのか？

単純な平面で多様な空間の連鎖をつくる

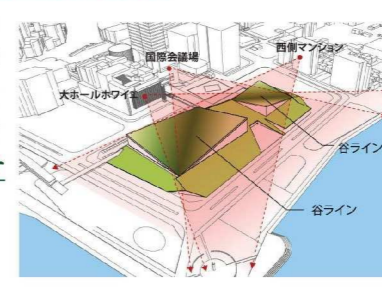
- ・限られた予算の中で、**機能性とデザイン性を同時に実現する幾何学(連結HP曲面)**を提案します。
- ・平面は直交軸で単純な構成としながら、**高さ方向を変化**させ、それをつなぐことで曲面の連続体をつくり、**多様な空間の連鎖**を生みだします。
- ・**幾何学でコントロールされた形態**は、様々な要望や必要寸法を許容しながら、全体のデザイン性を保つ、**強さと柔軟さを兼ね備えた建物**になります。
- ・**近代建築で多用されたHPセルの言語を継承**しながら、構造だけでなく、地形や風や水の流れ等をコントロールする**現代的な言語に進化**させます。



【眺望の確保】 ●周辺建物からの眺望をどのように確保するのか？

HPセルの曲面形状で眺望の確保

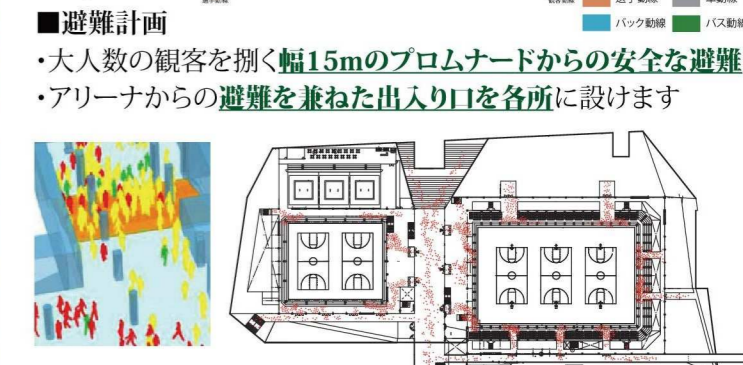
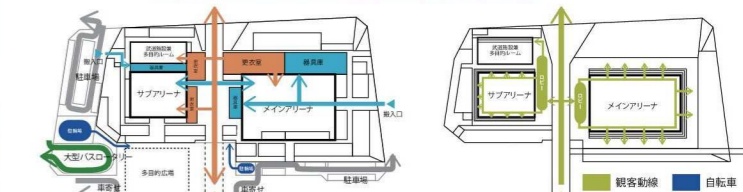
- ・大きな緑地ができることで、**周囲に対する圧迫感を軽減し、高さを抑えることで、周辺建物の眺望を確保**します。
- ・HPセル曲面の特徴である、垂れ下がった形状となることで、**対角線状に谷ライン**ができ、**視線の確保**を可能にし、**国際会議場やシンボホール高松のホワイエから海への眺望を保つ**ことができます。



【動線・交通計画】 ●動線をどのように整理し、スムーズな移動を実現するか？

明快なゾーニングによるスムーズな動線計画

- ゾーニング計画
- ・周辺の交通環境に配慮し、**歩行者、自転車、車、バスの動線を明確に分け**、多目的広場を介してメインエントランスにアクセスします。
- ・**1F、2Fとも南北に抜ける主動線**を設け、そこから各諸室へ分岐していくわかりやすい動線計画とします。
- ・**競技者や施設利用者は1F、観客は2F**と明快に区別します。
- ・1F中央に**大小アリーナで共有できる器具庫**を設けます。



- 避難計画
- ・大人数の観客を捌く**幅15mのプロムナードからの安全な避難**
- ・アリーナからの**避難を兼ねた出入口を各所に設け**ます